

温泉分析書

衛研依第 8-33 号温 2008 号

1 申請者住所氏名		北海道登別市登別温泉町60番地		登別温泉株式会社 代表取締役社長 栗林 和徳					
2 源泉名および湧出地		温泉 (源泉名 1号乙泉) 登別市登別温泉町2398林班マ小班							
3 湧出地における調査および試験成績									
(イ) 調査および試験者		北海道立衛生研究所 内野 栄 治							
(ロ) 調査および試験年月日		平成 21年 7月 14日							
(ハ) 泉 温		58.6℃ (気温: 27℃) (ニ) 湧出量: 2720 l/min (自然湧出)							
(ホ) 知覚的試験		乳白色濁、酸味、硫化水素臭							
(ヘ) pH 値		2.3 (ト) ラドソ (Rn): 0.075 マッヘ単位/kg							
4 試験室における試験成績									
(イ) 試験者		北海道立衛生研究所 内野 栄 治							
(ロ) 分析終了の年月日		平成 21年 7月 27日							
(ハ) 知覚的試験		乳白色濁、酸味、硫化水素臭 (採水後19時間)							
(ニ) 密度		0.9991 (20 / 4℃)							
(ホ) pH 値		2.26							
(ヘ) 蒸発残留物		1.211 g / kg (110℃)							
5 試料1kg中の成分 : 分量および組成									
(イ) 陽イオン		ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)	(ロ) 陰イオン		ミリグラム (mg)	ミリバール (mval)	ミリバール% (mval%)
水素イオン	H ⁺	5.0	4.96	37.21	フッ素イオン	F ⁻	0.1	0.01	0.07
ナトリウムイオン	Na ⁺	59.3	2.58	19.35	塩素イオン	Cl ⁻	106.4	3.00	22.29
カリウムイオン	K ⁺	8.2	0.21	1.58	水酸イオン	OH ⁻			
アンモニウムイオン	NH ₄ ⁺	2.5	0.14	1.05	硫化水素イオン	HS ⁻	0.0	0.00	0.00
マグネシウムイオン	Mg ²⁺	9.7	0.80	6.00	チオ硫酸イオン	S ₂ O ₃ ²⁻	16.4	0.29	2.15
カルシウムイオン	Ca ²⁺	20.1	1.00	7.50	硫酸イオン	SO ₄ ²⁻	441.3	9.19	68.28
アルミニウムイオン	Al ³⁺	26.0	2.89	21.68	炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻	0.0	0.00	0.00
マンガンイオン	Mn ²⁺	1.5	0.05	0.38	炭酸イオン	CO ₃ ²⁻	0.0	0.00	0.00
第一鉄イオン	Fe ²⁺	17.3	0.62	4.65	硫酸水素イオン	HSO ₄ ⁻	93.8	0.97	7.21
第二鉄イオン	Fe ³⁺	1.5	0.08	0.60					
計		151.1	13.33	100.	計		658.0	13.46	100.
(ハ) 遊離成分									
非遊離成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)	非遊離成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)		
メタ珪酸	H ₂ SiO ₃	188.4	2.41	メタ亜ヒ酸	HAsO ₂	0.2	0.00		
メタ硼酸	HBO ₂	25.4	0.58	硫酸	H ₂ SO ₄	1.5	0.02		
計				計		215.5	3.01		
溶存物質 (ガス性のものを除く)		1.025 g / kg							
溶存ガス成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)						
遊離二酸化炭素	CO ₂	28.0	0.64						
遊離硫化水素	H ₂ S	12.4	0.36						
計		40.4	1.00						
成分総計		1.065 g / kg							
(ニ) その他微量成分		銅: 検出せず、鉛: 検出せず、亜鉛: 0.032mg/kg、カドミウム: 検出せず 総水銀: 0.57μg/kg、リン酸: 0.027mg/kg、腐植質: 検出せず							
6 泉 質		酸性-含硫黄-アルミニウム-硫酸塩・塩化物温泉 (硫化水素型)							
7 禁忌症, 適応症		「温泉分析書別表」中5に記載する。							
平成 21年 7月 28日		登録分析機関 登録番号 北海道第1号							
北海道札幌市北区北19条西12丁目									
北海道立衛生研究所長									

温 泉 分 析 書 別 表

1	源 泉 名	： 1号乙泉
2	源 泉 所 在 地	： 北海道登別市登別温泉町2398林班マ小班
3	温 泉 分 析 申 請 者	： 登別市登別温泉町60番地 <div style="text-align: right;">登別温泉株式会社 代表取締役社長 栗林 和徳</div>
4	泉 質	： 酸性一含硫黄一アルミニウム一硫酸塩・塩化物温泉（硫化水素型） （酸性低張性高温泉）（旧泉質名：酸性硫化水素泉）
5	療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりである。	
浴	禁 忌 症	急性疾患（特に熱のある場合）、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、高度の貧血 活動性の結核、出血性疾患、妊娠中（特に初期と末期）、その他一般に病勢進行中の疾患 高齢者の皮膚乾燥症、皮膚 粘膜の過敏な人 特に光線過敏症の人。
用	適 応 症	神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、冷え症 慢性消化器病、痔疾、疲労回復、病後回復期、健康増進、虚弱児童、慢性皮膚病、やけど きりきず、慢性婦人病、動脈硬化症、糖尿病、高血圧症。
飲	禁 忌 症	下痢の時、腎臓病、高血圧症、その他一般にむくみのあるもの。
用	適 応 症	糖尿病、痛風、便秘、慢性便秘、慢性消化器病。
浴用、飲用の 一般的注意事項	<p>1 入浴の方法及び注意</p> <p>(1) 熱い温泉に急に入ると、めまい等を起こすことがあるので十分注意をすること。</p> <p>(2) 入浴時間は入浴温度により異なるが、初めは3分ないし10分位とし、なれるにしたがって延長してもよい。</p> <p>(3) 入浴中は運動浴の場合は別にして、一般には安静を守ること。</p> <p>(4) 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守ること。</p> <p>(5) 高度の動脈硬化症、高血圧症及び心臓病の患者は原則として、高温浴（42℃以上）を禁忌とする。</p> <p>(6) 入浴後は身体に付着した温泉成分を水で洗い流さないのがよい。ただし、「湯ただれ」を起こし易い人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分をふき取るのがよい。</p> <p>(7) 食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。</p> <p>(8) 飲酒しての入浴は特に注意すること。</p> <p>(9) その他</p> <p>2 飲用の方法及び注意</p> <p>(1) 飲用の1回量は一般に100mlないし200ml程度とし、その1日量はおおむね200mlないし1,000mlまでとする。</p> <p>(2) 一般には食前30分ないし1時間がよい。</p> <p>(3) 夕食後から就寝前の飲用はなるべく避けること。</p> <p>(4) その他</p> <p style="text-align: center;">大人一人一日の飲用量は720ml以内とし、適宜希釈して食後に飲用すること （ヒ素含有、酸性泉）。</p> <p style="text-align: center;">15歳以下のものについては、知見が必ずしも十分でないため、原則的には飲用を避けること。 ただし、例外的に飲用する場合には、医師の指導を受けること。</p> <p>◎ 温泉療養に際しては、医師の指導を受けることが望ましい</p> <p>(注) この別表は、温泉法第14条による掲示に必要な参考資料となるものである。</p>	
平成 21 年 7 月 28 日		
		決定者 北海道立衛生研究所長 